第 2017-16 号

恵みと真理のニュース

2017 年 4 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 度重なる逆境を乗り越える力と勇気を与えてくださり、時によって助けてくださる恵みの神様を賛美します

私は偶像崇拝をする家庭で生まれ1男4女の中で末子の娘で生まれました。早く結婚した母は遅く子供を産みましたが、その喜びはまもなく続いて四人の娘を産みました。男児を好む思想が強かった家庭だったので母は言葉では表現できないほど苦労をしました。親は巫女を呼んで祭祀をしたり、お寺に行って100日間祈りをして様々な偶像崇拝をしました。5番目で息子が生まれてからは偶像崇拝をするのが酷くなりました。このような環境で教会に行くのは想像もできない事でした。姉たちはクリスマスでも教会に行けませんでした。
しかし、私だけは教会に通うことが出来ました。私のおかげで息子が生まれたと、父から褒められて私だけは教会に行くのを許可してくれて、小学生から高校生まで熱心に教会に通い学生部の委員を任されて礼拝と奉仕をして大人から認定や多くの愛を受けました。私が通っていた教団が運営する大学に入ろうと熱心に入試準備をしましたが、家庭の状況によって諦めました。その時はその教会が異端に属していると知らなかったです。
心が悲しくて辛くてしばらく間、不満と恨みましたが苦労する親と貧しい家庭を考えて金を稼ぐためソウルに行きました。当時は自分の考えが強かった私は自尊心に傷つけられ人々を会わなくて教会も行かなくて連絡を切りました。今考えると神様に感謝します。もし、私が異端の大学に入ったら魂が病気になったからです。神様にもっと感謝するのは職場でイエス様を信じる兄弟に出会って結婚するようになりました。
良家の顔合わせをしてまもなく母の病気が悪化され病院に入院しました。私は職場を辞めて母の介護をしました。私が大学に行かなかったのをいつも気の毒だと思っていた母がさらに教会も行けなくて病院で介護をしている私を見て済まないと思っていました。病院で牧師が訪問に来て母はイエス様を信じると決心しました。その後、涙を流しながら私の手を掴んで教会に熱心に通いなさいと再び言われました。家族の占いをしたら他の家族と違って私だけは出ないから娘が教会に通うようにしなさいと聞かれたそうです。父がなぜ私だけ教会に行くを反対しなかったのを理解した理由も初めて知りました。このように私は神様から多くの福を受けた者です。

結婚して娘を産んで大変なことなく楽に暮らしました。教会も忘れて暮らしました。そうするうちに私の家庭で大きい試練が来ました。 旦那が詐欺にあって事業が不渡りをして1日朝に行く場所がない状況になってしまったのです。まもなく姉の家に暮らす間、旦那の勧めで教会に行きましたが様々な事が適応が出来なくてすぐやめました。時間が経てから首区域長の導きによって恵みと真理教会に参席しました。
初めて参席した礼拝で当会長の牧師の説教を聴いて大きく恵みを受けました。今まで閉まっていた耳が開きました。事業の失敗とそれによる様々な苦難で落胆し挫折した私の心が大きい慰めと愛で来ました。再び会った主の尊い御言葉で私に勇気と力をくださいました。その日、真の涙をながして悔い改めの祈りをして主を離れません。これから主の御心の通りに生きると決心をしました。以後、教会生活がとても楽しくて幸せでした。いげんの賜物も受けて児童区域長の職分も受けました。旦那も交通奉仕をして教会と聖徒を仕えました。
私の夫婦が熱心に教会中心、礼拝中心の生活を始めたら神様は喜んで旦那に良い条件の職場にも入るように助けてくださって家庭が安定するようにしてくださいました。息子もくださって少しずつ大きい家に引っ越しして時によって助ける恵みもくださいました。すると日々喜んで感謝しながら住みました。区域長になって以前より伝道に力を使って姉を伝道して信仰の同伴者で共に祈り主の事をする楽しむを享受するようになりました。しかし、青天霹靂な事がまた起きました。家を担保してお金を借りて家が競売で売られたのです。今まで誠実に働いて集めて32坪マンションを買ったのに、それで家具も最高に良いものに変え、その達成感と幸福感が大きかったですが、1日にその家を失ってしまいました。"他国の者の保証人となれば災難がふりかかる。手を打って誓うことを嫌えば安全だ。”（箴言11：15）は聖書御言葉もあるのに、おろそかにしたのでしょう。誰の性にせて恨むことが出来ませんでした。返すことが出来ないことで、心を整えて神様を仰ぎました。断食して祈りしてもっと礼拝を捧げました。"心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず 常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば／主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。”（箴言3：5, 6）主に私の将来を委ねて祈りました。地下の一つの部屋がある家に引っ越しました。イエス様を信じない姉たちは私をかわいそうに思って神様と旦那を恨みました。以前も事業に失敗したとき再び立ち起きるように私たちを助けてくださった神様を考えそんな状況でも笑いを忘れなく明るくて肯定的な態度をしました。すると姉たちは私に太平の女と別称を付けました。私は神様を軽忽に思い話すのには我慢できませんでした。"神様、この問題を助けてください。様々な偶像崇拝をしてまた、お金が偶像になっている姉たちが生きておられる神様の前に立つように導いてください。私の状況が災い転じて福となるようにしてください。”と祈りました。
自分は資格と能力もないにもかかわらず神様の摂理で私は友達と共に不動産の仕事をするようになりました。そして、神様は助け人を与えてくださって大きいお金を条件もなく貸してくれてアパート競売の問題を解決して引っ越しをすることが出来ました。手に持っているお金が少なくて大きい家ではなかったですが、神様の奇跡を経験した私は児童と成人の区域礼拝を捧げるような家に引っ越しするように導いてくださいと祈りました。そうする中で家の主人と報奨金の問題で相談するため店に来たお客さんに出会いようになって、相場の3分の1ほどの金額でその方が住んでいた2階の42坪の広い家に入るようになりました。そのお客さんと私の二つの家庭の問題が解決しました。どんな状況でも一番良い結果を見るように摂理して助けてくださる神様に感謝と賛美を捧げます。
引っ越しをする日朝から雨が降りましたが私には恵みの雨でした。雨がたくさん降っているから次の日に譲りました。次の日はアパートで最後の児童区域礼拝を終わらせて引っ越しをする職員が入ったら天気が良くて明るくなりました。みんなが驚きました。しかし、私は驚きませんでした。神様に感謝し喜びで賛美しました。
恵みと真理教会で聖霊に満たされ信仰生活をするように導いてくださる神様に感謝します。平安な時や大変な時、いつも私たちの家庭の牧舎になって主を表す家庭になるように導いてくださる主を賛美します。与えてくださった主の恵みを忘れなく相変わらず主を愛し、主がくださった職分に最善を尽くし生きます。ハレルヤ！

［信仰コラム］ 私はイエス様の誕生、死、復活を信じます

"主は聖霊によりてやどり、乙女マリヤより生れ... "（使徒信条）

使徒信条の中で"主は聖霊によりてやどり、乙女マリヤより生れ、ポンテオ･ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰符にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり"という内容をイエス様の誕生、死、復活という三つの部分に分けて調べてみます。
第一の部分は、"主は聖霊によりてやどり、乙女マリヤより生れ"です。
イエス様の誕生は神様が肉親を被り、人の姿でこの世にお越しになった神秘で驚くべきな事件であります。永遠なお言葉だと呼ばれる聖子神様が肉親を被り人の姿でこの世にお越しになりました。（ヨハネによる福音書 1:1～3、14）聖父神様の思いに従って乙女マリヤの体に聖霊によってやどり、誕生なさいました。その事実に対して人々は二つの質問をします。"どうしてそのような事が可能ですか？""なぜそうでなければならないのですか？"という質問です。
"聖子神様が乙女マリヤの体にやどることがどうして可能ですか？"という質問はマリヤが天使に尋ねた質問でもあります。天地を造りなさった全能な神様を信じると乙女マリヤが聖霊によって宿された事実を信じるに何の難しさもありません。
神様が罪人を救うために一つの方法定められたが、これは贖いです。罪が全くない人こそが贖い者になることができます。しかし、アダムの血統で生れた人は全て罪の中で生れます。旧約時代に贖罪祭物は全て将来お越しになる贖い者に対する模型であり陰に過ぎませんでした。罪のない聖子神様が乙女の体に聖霊によって宿り、人の姿でこの世にお越しになった理由がここにあります。
第二の部分は、"ポンテオ･ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ"です。
ポンテオ･ピラトに苦しみを受けたという部分はとても意味があります。これはイエス様が十字架につけられた事件を歴史的に立証する意味を持ちます。イエス様は私達のために苦難を受け、死なれるためにこの世にお越しになりました。（ピリピ人への手紙 2:6～8）十字架で処刑されることはローマの刑罰として最も極端の刑罰を受けることです。イエス様が受けられた苦難と十字架につけられて死なれたことの誠な意味は何ですか？イエス様が受けられた苦難と死は贖いの苦難と死です。（イザヤ書 53:4～6）従って"ポンテオ･ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ"という部分は私達の信仰と告白の中心になります。
第三の部分は、"三日目に死人のうちよりよみがえり"です。イエスキリストの復活はイエス様の超自然的な誕生と贖いの死と共にキリスト人の信仰の礎石であります。イエス様の復活は私達の罪が成功的に、完全に贖われたという事実を確証することです。初めのキリスト人達は大多数ユダヤ人でした。彼らはユダヤ人達が今まで守ってきた安息日の代わりにイエスキリストが復活なさった日である日曜日すなわち、主日を守るようになりました。そしてキリストの復活の証拠として新約聖書ができたのです。新約聖書には復活に関する六つの証が別にあります。その中で三つはイエス様の弟子ヨハネ、ペトロ、マタイ等が直接に見て証言したのです。そしてパウルは信者達に送った手紙で復活は自分であれ読む人であれ疑いなしに受け入れられて良く知られたことだと述べました。
イエスキリストの復活に対する圧倒的な証拠はそれ以外にも多くあります。空いた墓の証拠と復活なさったイエス様が人々に現れた証拠です。イエス様の復活については誰も否認することができない確実な多くの証拠があります。
イエス様は自ら彼の死と共に復活を予言なさい、それは事実化されました。この世の人々の罪を代わりにして死なれた方がイエス様以外にどこにいて、死亡権勢に勝って死から蘇られた方がイエス様以外にどこにいますか?イエスキリストの誕生と死と復活という客観的な事実を主イエスキリストに対する信仰告白の根拠とする人は誠に福のある人であります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

あわれみ深い人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日は “あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。”というお言葉をよく見ます。 あわれみ深いは愛のような性格を持った用語です。 愛の核心があわれみです。 義と愛は対照的ながら調和を成す神様の属性です。 神様の義と愛は均等です。 義だけあって愛がなければ冷情で無慈悲な義になって、一方に愛だけあって義がなければ罪を腕を拱く無分別な愛になるでしょう。 私たちは義を慕う一方あわれみ深い思う心を持たなければなりません。
本文の “あわれみ深い思う。” という言葉は ‘その人の側に止まって同じ心情で事物を見て感じること’ を意味します。 そして理解して同情しながらさらにはその人が当面した困難を打開するように助けるようになります。 今日の社会はすべてのものを経済的な価値で計算して利害得失を計算する打算的な人間関係のますます深くなっています。 甚だしくはこづかいの用意のために人を拉致して殺す事件が発生するほどです。 あわれみ深い思う心を持った人は他人に悪を行わないです。 あわれみ深い思う心は人間関係を暖かくして、社会を明るくする原動力です。 あわれみ深い思う心は自分と隣りを皆恵まれさせる心です。 私たちがいつもあわれみ深い思う心を持とうとすれば良いかをよく見ます。

第一、人は誰も不足で弱くて過ちを起こる可能性があるという事実を認識して勘案しなければなりません。

他人が非難を浴びるに値する仕事を行うことを見て憤慨しながら責めた人が ある日自分も類似の過ちをしでかして非難を浴びる事例を捜してみるのは難しくないです。 判断して定罪する仕事がないことができなくてまたなければなりません。 ただ故意にした行為と不注意や間違いによる行為は厳格に区分されなければなりません。 とにかくあわれみ深い思う心を持って判断しようとすれば “人は不完全で誰でも類似の行動をする可能性がある。” という考えを持たなければなりません。 律法の尺度にだけ相手を判断すれば定罪することしかないです。 一方にあわれみ深い思う心と判断すれば同情と理解もするようになります。

第二、他人の不幸を自分の仕事のように思わなければなりません。

イエス様は人々の苦痛と悲しみをまるで自分の仕事のように思って赦しと慰めながら治療しました。 イエス様は人々が可愛想に思ってくれと言って訴える懇求を無視しなくて彼らの訴えに回答なさいました。 新約聖書の福音書には “ダビテの子 イエス様、私を可愛想に思ってください。” と訴えて切に求める者が癒されたお言葉がたくさん記録されています。

ジェリコ城には道端で物乞いするバデーメオという盲人が乞食がありました。 バデーメオはイエス様が聖書に予言されたメシアという事実が分かるようになりました。 ある日イエス様がジェリコを通るといううわさをききました。 彼はイエス様が通る時に全力を尽くして叫びました。 イエス様は “ダビテの子イエス様、私を可愛想に思ってください。” というバデーメオの訴えをきいて彼を治療してくださいました。
イエス様は罪によって滅亡する人生をあわれみ深い思って救いしようとこの世の中へいらっしゃいました。 33 年の間この地にいらっしゃりながら人間の罪と悲しみと苦しさを自分の仕事のように思いました。 そして人間のすべての罪ととがを代わりに担当して十字架に釘を打たれました。 身引き破かれて血が流れてたまらなかったし墓に葬られました。 しかし三日ぶりに復活しました。 これに関して聖書は次のようにおっしゃっています。 “この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試錬に会われたのである。 だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかることなく恵みの御座に近づこうではないか。” (ヘブル人への手しもべが 4:15,16). 天地万物を創った永遠な聖子の神様が肉体を着てこの地へいらっしゃることで時間と空間の制限の中に入って来ました。 罪と悲しみと苦痛にかまけた人生を可愛想に思うので教えて治療して奇蹟を施しました。 そして罪をあがないしました。 どんな人もイエス様のようなあわれみを人々に施すことはできないです。 ただ 私たちはイエス様を模範として最大限あわれみ深い思う心を持って隣りを理解して許しながら面倒を見なければならないでしょう。 この世の中で一番可哀想な人が誰ですか? 全くあわれみを受けなければならない人が誰ですか? 魂がぼろを受けて飢えた状態にある人々です。 罪と悪魔のとりこになっている人々です。 心霊の目がくらんだ人々です。 聖徒はこのような人々が神様の震怒と審判を受けて地獄の刑罰を受けるようになることを思って憐愍の情を感じなければなりません。 そしてあらゆる犠牲を忍耐してこれらに福音を伝えなければなりません。

第三、イエスキリストにあって変化された自分の身分と位置を深さ認識しなければなりません。

人が劣等感を持てば他人をあわれみを施すことができないです。 むしろ ねたみの感情だけ生ずるようになります。 他人をうらやんでそねみながら同時に可愛想に思う心が生ずることはできないです。 イエスキリストを信じる人は自分の身分と位置を深さ認識しなければなりません。 聖書に記録されるのを “しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。” (ペテロの第一の手しもべが 2:9)と言いました。 イエス様を信じる人は ‘王とおなじ祭司’ という身分を持つようになりました。 この事実を確かに認識する聖徒は劣等意識に耽らないです。 そして他の人々をあわれみ深い思うようになります。
信仰で暮した人々を思ってください。 彼らは伝道している途中に蔑視と賤待を受けてあらゆる逼迫を受けて監獄に閉じこめられても卑屈な心を持つとか劣等感を持ったことがないです。 むしろ彼らは他の人々を可愛想に思ってあわれみ深い思う心を持ちました。 使徒行伝に見ればスデバンは石に当たって殉教されながらも “神様よ、この罪を彼らに帰しないように。” と祈りながら荘厳な最後を迎えました。 スデバンは自分が王のような祭司で天に座った者という事実を深く認識しました。 このために自分を石で打つ者をあわれみ深い思う心を持つことができたしその顔が天使のように輝きました。 聖徒の皆さんは王のような祭司の身分を持って天に座った位置にいる自分の身分と位置を認識してください。 そんなにすれば他の人々に対してあわれみ深い思う心を持つようになります。

第四、自分が神様のあわれみを深い受けて生きているという事実をいつも思わなければなりません。

聖徒が持つあわれみの性格は三種類です。 天性的なことがあります。 また教育と経験を通じているようになることがあります。 また神様のあわれみを体験することで浮かび出るあわれみがあります。 イエスキリストが次のようなお言葉を聞かせました。 ある主人に一万ダルラント借金したしもべがありました。 そのしもべが借金を返さないで主人はそのしもべを呼んで今すぐ借金を返しなさいとどなりました。 そのしもべが待ってくれと言って哀願すると主人は彼を可愛想に思って借金を皆 免除してくれました。 家に帰ったしもべが道で同僚 一人に会いました。 一百のデナリオンを貸して行った人です。 するとそのしもべは仲間に今すぐ借金を返しなさいと叫びました。 そのしもべは仲間の哀願にもかかわらず彼を監獄に入れ込みました。 これを見た他の仲間が主人にこの事を報告しました。 大きく怒る主人は今すぐそのしもべをつかまえて来させた後そのしもべが借金したすべてのものを返すまで彼を看守に渡してやりました。
私たちは神様からかぎりがない赦しを受けました。 私たちが神様のあわれみを受けて救いもらった後に完全に義のあるように暮していますか? 聖なる生きて行きますか? 実はそうではないです。 私たちは神様のあわれみを過去にも受けたし今も受けているしこれからも受けなければなりません。 こういうので私たちは神様の無限なあわれみを受けるのに対して厚く感謝していつもこれを思い出すことであわれみ深い思う心を持たなければなりません。 私たちは “神様、私をあわれみ深い思ってください。” と叫ばなければならない時が多いです。 そうするので “あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。” という神様のお言葉を念頭に留めおかなければなりません。

イエスキリストがおっしゃるのを “あわれみ深い人たちは、さいわいである、” としました。 他人からあわれみを受けるように願うより他人をあわれみ深い人になろうとしてください。 あわれみを受けるよりあわれみ深い人がもっとさいわいがあります。 心が硬くして乾くな人、律法の尺度で判断して定罪してばかりする人は家庭と教会と社会を索莫としていさせます。 一方にあわれみ深い思う心を持った人は家庭と教会と社会を活気に満ちさせて穏やかにさせます。 あわれみ深い思う心を持った人は善良で慈しみ深く事物を見ます。 理解しながらききます。 柔らかくて親切に言います。 “あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。” このお言葉が皆さんの生活を通じて実践されてふんだんに体験されるように願いします。